

吉田建設株式会社の取組事例

設備の名称

自動追尾型測量機

DX設備の導入する目的と効果

従来は複数台の機械を使って測量をしていたものを、1人かつ1回の測量で完遂し、作業時間の短縮化と浮いた時間に他の業務をあてることで、作業効率の改善と生産性の向上につなげる。

DX化に取組むきっかけ

かねてより測量業務に対する業務効率化を検討していたものの、機械設備が大変高額であったため、機械のリースによって最大限の業務効率化を図っていた。

企業としての目指す将来像

現場の生産性向上、コストダウンへとつながった経験から、1人で測量業務をこなしていくために、さらなる設備投資を計画。具体的には、iPhoneを使ったLiDARスキャナーによる3D測量を実施し、積極的に民間工事の新規獲得を図り、収益性の向上や経営の安定化を目指す。

<従来の作業の様子>



測量機器を操作する作業員とプリズム反射鏡をかざす作業員が必要だった。

<設備導入後の作業の様子>



プリズム反射鏡と機械を操作するタブレットのみで測量業務を行うことが可能。作業員が測量地点まで移動すると、測量機も自動でプリズム反射鏡を追いかけるようにして次の測量地点の数値を算出する。